



マナウス日本人学校 学校便り

マナウス

平成 28 (2016) 年 11 月 28 日 第 9 号

学校教育目標

- ・自ら進んで学びとる子ども (知)
- ・礼儀正しく思いやりのある子ども (徳)
- ・心と体を鍛える子ども (体)

輝迫あふれる学習発表会に感動！

校長 中川 勝美

日本では、秋を通り越え冬将軍の到来を思わせるような寒い天候が続いているようですが、ここマナウスは、暑～い夏。さらに、暑いマナウスが学習発表会の熱気でヒートアップしたようでした。

この日のために、児童生徒が一丸となってスローガン「輝迫～創り上げよう36人の心をついに～」の達成を目標に練習に励んできました。

決められたせりふを単に言ったり、歌ったり、曲を演奏したりするのではなく、そこに「どんな気持ちを込める」のか、「観客の皆さんに何を伝えたいのか」、そして、この学習発表会を通して「どんな力をつけたいのか」、「どんな仲間になっていきたいのか」について 教師と子供が一緒になって試行錯誤しながら取り組んできました。高学年が一人ひとり自分の夢や目標を力強く述べたその言葉に、教師と子供たちが作り上げてきた想いの一端が表れていたのではないのでしょうか。

学習発表会を終えて、「自分は、友だちと共に、こんなことを頑張った」と胸を張って言えることが私たちの願いです。

学習発表会は、日常の学習の成果を総合的に生かす場として大きな役割を持っています。子供たちは、これまでの経験や普段の学習を演技そのものに生かすことはもちろんのこと、練習に向かう姿勢も大切にして取り組んできました。

時には、グループリーダーが中心となって、一人ひとりバラバラになりがちな思いを一つにまとめていく過程の中で様々な葛藤があったことでしょう。その困難さを乗り越えてきたからこそ、仲間と苦労を共有したからこそ、やり遂げた後には、心の奥底から湧き上がる大きな感動があったはずです。

学校として、グループとして、そして、子供たち一人ひとりに“生きる力”を育むためには、意図的・計画的に適度なプレッシャーのかかる場や機会を設定する必要があります。

自分の生活を振り返ったり、反省したりすることがなければ、そこで成長は止まり、現状維持ならともかく、やがては後退につながってしまいます。やさしそうで難しいことですが、「継続は力なり」。ゆるやかな階段（スモールステップ）を一段ずつ確実に登り続けることにより、持てる力はより大きく確かなものとなります。

学習発表会で輝いていた子供たちの姿の陰には、学習発表会を成功させるために一人ひとりに託された役割を頑張る姿、また、練習での努力、そして何よりも練習を通して目標に向かって仲間を大切に、心をついにしていく中で葛藤を乗り越えて感動を共有していく、その過程があったことに思いを馳せていただければ幸いです。

来賓・保護者の皆様には、心温まる激励の拍手をいただきまして、本当にありがとうございました。さらには今年度も愛幼稚園様、ジョゼフィーナ校様、西部アマゾン日伯協会日本語学校の皆様にもご参加頂き、学習発表会を大いに盛り上げることができましたことに心より感謝申し上げます。



12月行事予定